第23回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

秀作

古着がつくる持続可能な社会

東京都・東京都立新宿山吹高等学校　2年　西尾　駿作

私の家から徒歩数分の位置に、古着の聖地「下北沢」がある。大手飲食チェーン店が撤退し、跡地に古着屋ができるのを、幾度となく見てきた。しかし、私は正直古着に興味がなかったため、「また古着屋になったよ」と、少し飽き飽きしていた。

そんなとき、ふと私の中学校で古着回収をしていたことを思い出した。調べてみると、その地区の町会連合会などが主催しており、回収された古着は海外（主に東南アジア）に輸出され、現地で再利用（リユース）されているようだ[1)]。

私はこの活動に疑問をもっていた。古着には、商品価値のある古着と商品価値のない古着がある。商品価値のある古着は、古着屋などで買い取りに出され、多少の小銭稼ぎになる。したがって、この活動で回収される古着は、商品価値のない古着だらけだからだ。

ここで商品価値のない古着になってしまうのは、ファストファッション製品だ。ファストファッション製品は、低価格を実現するために低品質な素材で作られる。また、大量生産・短期間での廃棄を前提としているため、耐久性よりもトレンドを優先する作りになっている。これらの理由から、回収され現地に到着する頃には、すでにオンボロになってしまっている。私は高校の公共や英語の授業で、この現地の惨状を学んだ。

これら回収された古着は、とても安価な値段で販売される。そのため、現地で生産された服は売れず、産業が育ちにくくなっている。また、大量に送られてくるため、現地で埋め立てて廃棄、文字通り「服の山」ができてしまっている。その結果、低品質で石油を原料とする化学繊維により、自然に還らず土壌を汚染したり、それが海に流れ海洋生物に悪影響を与えたり、さらには火災によって、有毒ガスを発生させたりするなど、極めて深刻な環境問題を引き起こしている[2)]。

これらの問題を抱えるファストファッション製品に替わる選択肢が二つある。それが、エシカルファッション製品と古着屋で売買される古着だ。エシカル

©J-FLEC2025

ファッションとは、素材選びから廃棄に至るまで、人や地球環境に配慮した倫理的なファッションのこと。高品質で環境にやさしい素材を使っているため、一着を長く着ることができ、生産・廃棄量を減らすことができる。しかし、この環境配慮に加え、生産労働者の人権配慮も実現するためには、適正とはいえ比較的に多大なコストを要する。この懸念点を解決するのが、古着屋の古着である。古着屋では、数百円の一般的なものから数百万円を超えるヴィンテージものまで幅広く売られている。また、古着は1980年代後半から流行した「渋カジ」や、2000年代の「Y2Kファッション」と呼ばれる平成ギャルファッションがZ世代の間でリバイバルするなど、古着ブームが度々起きている。ただ、ブームという一過性のものに頼らない独自の強みもある。それは、どれも「一点もの」ということだ。ファストファッションは良くも悪くも大量生産するため、個性を出しづらい。一方、古着は一点ものであるから、個性を出しやすい。最近では、日常の写真を共有するSNSアプリが流行し、継続して自他の写真を撮影、閲覧する機会が増えた。その結果、服装がかぶってしまうという悩みが生まれた。そこで古着を着用することで、他者とのかぶりをなくし、個性を表現できるのだ。

ここまでは、廃棄される衣服を減らすこと（リデュース）に焦点を当ててきた。では、着なくなった衣服のその後はどうするべきか。

まずは、古着屋で買い取りに出そう。衣服のブランドや状態にもよるが、定価の一割前後で買い取ってもらえる。店舗によっては、その金額に相当する商品と交換できるところもある。次に、そこで買い取られなかった衣服は、アップサイクルに出そう。例として、私の最寄り駅には古着回収BOXが設置されている。このBOXでは回収した古着のリユースやリサイクルに加え、クリエイターなどと連携したアップサイクルを目指している[3)]。一般に、リサイクルではウエス（工業用雑巾）等になるが、アップサイクルでは異なる古着をつなぎ合わせたりすることで、唯一無二の商品に変貌する。この点から、個性を出したい若者の間で支持が増え、古着のアップサイクルも請け負う古着屋の受注が大きく伸びている[4)]。

ここで、中学校での古着回収活動を振り返る。この活動は、地域の人々にリサイクル意識の向上や途上国支援の一歩として大きな役割を果たしている。しかし、私たちは悪気なく寄付先の国に「服の山」をつくってしまっていた。その現実を受け止め、私たちは「服の山」をつくらない古着回収で支援すべきだ。

©J-FLEC2025

そこで、私の家で利用したサービスを一例として紹介する。それが、「古着deワクチン」というサービスだ。私の姉は一時期、部屋中に服が山積みになっているのに、「着ていく服がない」といって、新しい服を買い続けていた。その結果、服が溢(あふ)れかえってしまった。どうすればよいか悩んでいるとき、このサービスを見つけ、利用してみた。

まず、購入した回収袋に詰め、玄関先で回収してもらい、選別するためのセンターに送られた。その先を調べてみると、そこで選別された服が開発途上国の直営店に送られるようだ[5)]。無理をせず手の届く範囲で運営されているため、「服の山」をつくらず、すべて有効活用される。また、私たちが１回注文するだけで５人分のポリオワクチン（ポリオは特効薬がないため、予防が極めて重要な感染症[6)]）が届けられ、さらに直営店で１着売るごとに１人分のワクチンが届けられる。加えて、国内外の障がい者の方々や途上国の人々の雇用創出も行っている。

このような透明性が高く途上国に貢献する古着回収サービスを利用すると、部屋のすっきり感も相まって、清々しい気分になれるのだ。

古着を通して、私たちが善意で途上国に莫(ばく)大な損害をもたらしている現実、それを解決する手段、そしてこれからの持続可能な社会を実現する一歩を知ることができた。これを考えるきっかけを与え、古着のリデュース・リユースという重要な要素を担っている古着屋の街・下北沢。そんな街が近所にあることを少し誇りに思った。

（注）

１）世田谷区「『古着の回収（春）』を実施しました（代沢地区）」
URL　https://www.city.setagaya.lg.jp/01014/10355.html
閲覧日　2025年9月11日

２）NHK「着られなくなった衣服の“末路”とは…」
URL　https://web.archive.org/web/20250416021600/https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/feature/2022/05/29/21711.html
閲覧日　2025年9月11日

３）京王電鉄「駅・施設での古着回収の実証実験を開始します！」
URL　https://www.keio.co.jp/news/update/news_release/news_release2024/pdf/nr20240507_hurugi2.pdf
閲覧日　2025年9月13日

４）日本経済新聞「Z世代は古着アップサイクル、個性とサステナまとう」
URL　https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC012B20R01C21A1000000/
閲覧日　2025年9月13日

©J-FLEC2025

5）朝日新聞Reライフ.net「古着でも気持ちのこもった『商品』　大切に海外へ送り届ける」
URL　https://www.asahi.com/relife/article/15166438
閲覧日　2025年9月14日
6）一般社団法人日本感染症学会「ポリオ（急性灰白随炎）」
URL　https://www.kansensho.or.jp/ref/d78.html
閲覧日　2025年9月14日

©J-FLEC2025